

高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第9週〔3月1日～3月7日〕

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
 TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>
 E-mail:kansen@ken4.pref.kochi.jp

県内情報

○ 患者情報総評

注意報発令疾患：なし

- ・ 天気は晴れたり雨が降ったり，移り変わりが激しかったが，気温は高い日が多く過ごしやすかった。
- ・ 感染性胃腸炎（安芸：警報→注意報，中央西：注意報）は中央西と幡多では増加したが，その他の地域で減少し，総数は減少を続けている。
- ・ インフルエンザは安芸，中央西，幡多では0報告となり，その他の地域でも数例であった。今後も低いレベルで推移すると思われるが，いつまで続くかは推測出来ず動向が注目される。
- ・ RSウイルス感染症は中央東と中央西を除く地域で減少し，総数はピーク時の半数以下に減少した。
- ・ 水痘は地域毎に増減がみられ，総数はやや減少した。

上位疾患構成図



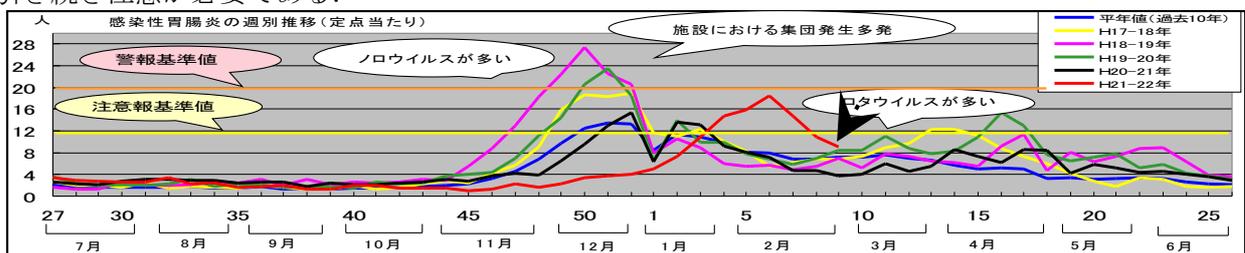
地域別感染症注意報・警報発生状況

第9報（2010年3月1日～2010年3月7日）



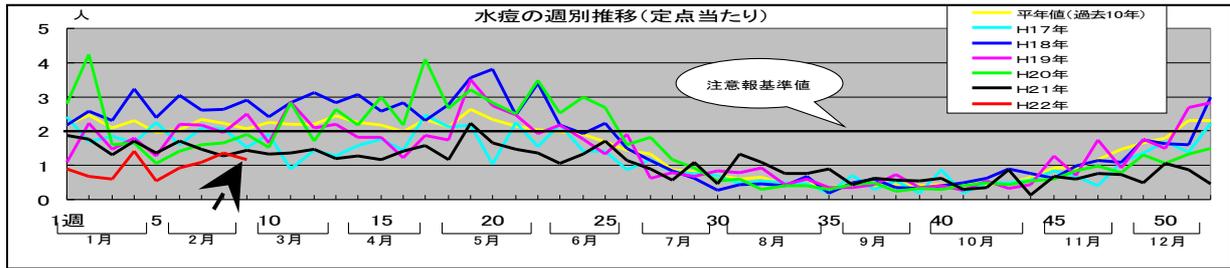
感染性胃腸炎：今週9.13（注意報値：12.00 警報値：20.00）

第6週をピークに減少が続いている。中央西と幡多を除く地域で減少し，警報値を越す地域はなくなった。今週，高知市でNorovirusによる集団感染が確認され，搬入された検体からはNorovirus G II 10件，Rotavirus 1件が検出されている。例年であれば，今後はRotavirusが流行する時期となるため，引き続き注意が必要である。



水痘：今週1.17 (注意報値：2.00 警報値：4.00)

第5週以降増加を続けていたが、今週は減少に転じた。昨年は第19週に一度注意報値を超したのみで、低いレベルで推移したが、今年はそれを下回る報告数となっている。



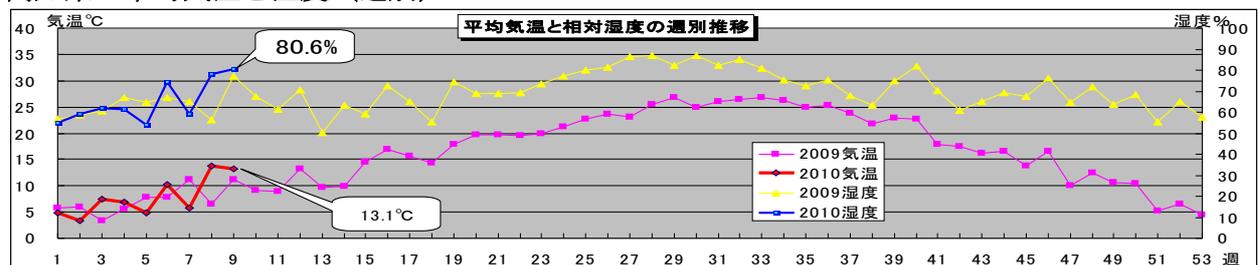
○ 検査情報

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
9	マイコプラズマ肺炎	5歳女	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
9	百日咳	2ヵ月男	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
9	百日咳	7歳男	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
9	マイコプラズマ肺炎	2歳男	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
42	ヘルパンギーナ	4歳女	高知市	Coxsackievirus A10
9	インフルエンザ	9歳女	高知市	Influenza virus AH1pdm
9	感染性胃腸炎	1歳女	高知市	Norovirus G II
9	感染症胃腸炎	1歳男	高知市	Norovirus G II
9	感染性胃腸炎	3歳女	高知市	Norovirus G II
9	感染性胃腸炎	7歳女	中央東	Norovirus G II
9	感染性胃腸炎	11歳男	中央東	Norovirus G II
9	感染性胃腸炎	1歳男	中央東	Norovirus G II
9	感染性胃腸炎	2歳男	中央東	Norovirus G II
9	感染性胃腸炎	1歳女	高幡	Norovirus G II
9	感染症胃腸炎	2歳女	高幡	Norovirus G II
9	感染症胃腸炎	2歳女	高幡	Norovirus G II
9	感染性胃腸炎	10歳男	高知市	Rotavirus A群

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 4例 (今年22例)
 (35, 82歳女) 《高知市》 (24歳女:無症状病原体保有者, 79歳男) 《中央東》
 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1例 (23歳女) 《須崎》 (今年1例)
 5類感染症：ウイルス性肝炎 (B型) 1例 (35歳男) 《高知市》 (今年1例)

○ 高知県の平均気温と湿度 (週別)



○ 定点からの地域ホット情報

幡多：
 《幡多けんみん病院小児科》：インフルエンザの1例はB型陽性
 《木俵病院小児科》：インフルエンザ 2例
 《さたけ小児科》：マイコプラズマ感染症 2例 (2, 3歳男) ヘルペス性歯肉口内炎 2例 (2, 3歳男)
 《渭南病院小児科》：アデノウイルス扁桃炎 2例 (1歳男)

高幡：
 《もりはた小児科》：RSウイルス感染症と感染性胃腸炎の発生が減少傾向となる。
 インフルエンザの発生は3週連続なし。

中央西：
 《くぼたこどもクリニック》：感染性胃腸炎の1例 (6歳女) は須崎市

高知市：

《高知赤十字病院小児科》：インフルエンザの1例はA型陽性
《けら小児科・アレルギー科》：カボジ水痘様発疹 1例（4歳男）

中央東：

《あけぼの小児クリニック》：インフルエンザの1例はA型陽性
《いちほら小児科内科》：インフルエンザの1例はA型陽性
《野市中央病院内科》：インフルエンザの1例（23歳男）はA型陽性

全国情報第7週（2/15～2/21）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核277例

3類感染症：細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症17例（有症者8例、うちHUS 1例）

4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎3例、デング熱1例、類鼻疽1例、レジオネラ症5例

5類感染症：アメーバ赤痢10例、ウイルス性肝炎（B型）3例、急性脳炎2例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、後天性免疫不全症候群11例（AIDS 2例、無症候9例）、ジアルジア症1例、梅毒12例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、麻しん11例

報告遅れ：急性灰白髄炎1例、細菌性赤痢1例、E型肝炎2例、レジオネラ症2例、急性脳炎7例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、後天性免疫不全症候群1例、風しん1例

◆インフルエンザ

2010年第7週のインフルエンザの定点当たり報告数は1.76（報告数8,438）となり、第4週以降減少が続いている。都道府県別では福井県（5.19）、佐賀県（4.64）、沖縄県（3.69）、富山県（3.57）、新潟県（3.24）、埼玉県（2.90）、静岡県（2.90）、長野県（2.70）、山梨県（2.63）、茨城県（2.43）の順となっている。山形県と新潟県を除く45都道府県では前週よりも減少がみられており、また福井県を除く全ての都道府県で5.00を下回った。

定点医療機関からの報告数をもとに、定点以外を含む全国の医療機関を1週間に受診した患者数の推計値は約9万人（暫定値）と減少し、第28週以降これまでの累積の推計受診患者数は約2,052万人（暫定値）となった。性別では男性約1,059万人（51.6%）、女性約993万人（48.4%）であり、年齢群別では5～9歳約516万人（25.2%）、10～14歳約474万人（23.2%）、15～19歳約280万人（13.7%）、0～4歳約227万人（11.1%）、20～29歳約218万人（10.6%）、30～39歳約154万人（7.5%）の順となっている（図4）。全ての年齢群で、前週よりも減少かまたは横ばいとなっている。但し、推計受診患者数は、受診患者数の多い医療機関がより多く選定されている傾向があることなどから、真の受診患者数より過大であると考えられている。この点を踏まえ、推計受診患者数についてはあくまで参考値として理解していく必要がある。

患者報告数が増加し始めた2009年第28週以降では、2010年第7週までに、全国の地方衛生研究所から27,592件のインフルエンザウイルスの検出が報告され、AH1亜型（Aソ連型）18件（0.07%）、AH3亜型（A香港型）148件（0.54%）、B型17件（0.06%）、AH1pdm（新型インフルエンザウイルス）27,409件（99.34%）とインフルエンザウイルスの検出報告数の大半をAH1pdmが占めている。また、2010年に入っても第1～7週までの7週間で検出・報告された1,733検体中、AH1亜型0件、AH3亜型0件、B型11件（0.63%）、AH1pdm 1,722件（99.37%）と殆どがAH1pdmである状態が継続しており、現在国内で発生しているインフルエンザの殆どは新型インフルエンザによるものと推定される状態が続いている。

定点からの報告数は、2009年第48週をピークに減少し続け、2010年第3週に一旦やや増加したものの、第4週以降再び減少が続いている。第7週の定点当たり報告数は1.76となり、インフルエンザの非流行時期のレベルに近づきつつある。しかし、まだ新型インフルエンザの今後の発生動向については不明な点も多く、季節性も含めたインフルエンザの発生動向には注意が必要であると思われる。

◆感染性胃腸炎関連ウイルス2009/10シーズン

2009/10シーズンに入ってから病原体個票による報告では、2009年第36週～2010年第7週にノロウイルス genogroup (G) I 64件（うち、GI/4 4件、GI/7 2件、GI/12 1件、NT 57件）、GII 723件（うち、GII/1 1件、GII/2 46件、GII/3 23件、GII/4 100件、GII/6 4件、GII/12 6件、GII/13 1件、NT 542件）、G不明110件、サポウイルス23件（うち、GI 4件、GII 2件、NT 17件）、A群ロタウイルス30件（うち、G9 1件、NT 29件）、アストロウイルス（1型）1件が検出されている。

また、集団発生病原体票ではノロウイルス集団感染事例が163事例 [GII 122事例（うち、GII/2 24事例、GII/3 11事例、GII/4 12事例、GII/12 2事例）、GI 16事例（うち、GI/4、GI/8 各1事例）、G不明25事例]、ノロウイルス（GI+II）&サポウイルス（NT）1事例、サポウイルス（GI）が1事例、A群ロタウイルス2事例（うち、G3 1事例）が報告されている。

推定感染経路は飲食店などでの食中毒および有症苦情が75事例、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、老人施設・福祉施設、ホテルなどでの胃腸炎集団発生が86事例、その他・詳細不明6事例である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(8週)	高知県(9週末累計) H22/1/4~H22/3/7
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ		4	1			3	8 (0.17)	26 (0.54)	6,524 (1.36)	2,527 (52.65)
	咽頭結膜熱					2		2 (0.07)		513 (0.17)	6 (0.20)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	8	2	1	2	15 (0.50)	15 (0.50)	5,169 (1.71)	197 (6.57)
	感染性胃腸炎	29	41	115	37	6	46	274 (9.13)	325 (10.83)	37,474 (12.36)	3,214 (107.13)
	水痘		12	13	1	1	8	35 (1.17)	41 (1.37)	4,856 (1.60)	260 (8.67)
	手足口病			5				5 (0.17)	1 (0.03)	776 (0.26)	17 (0.57)
	伝染性紅斑		1	2				3 (0.10)	1 (0.03)	396 (0.13)	13 (0.43)
	突発性発疹		1	9		1	2	13 (0.43)	9 (0.30)	1,528 (0.50)	82 (2.73)
	百日咳								2 (0.07)	71 (0.02)	5 (0.17)
	ヘルパンギーナ				1			1 (0.03)		113 (0.04)	11 (0.37)
	流行性耳下腺炎				1		3	4 (0.13)	1 (0.03)	3,011 (0.99)	37 (1.23)
	RSウイルス感染症	2	10	26	4	2	9	53 (1.77)	63 (2.10)	3,544 (1.17)	648 (21.60)
	アフター性口内炎			5				5 (0.17)			18 (0.60)
眼科	急性出血性結膜炎								1 (0.33)	16 (0.02)	1 (0.33)
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)		297 (0.44)	6 (2.00)
基幹	細菌性髄膜炎									12 (0.03)	
	無菌性髄膜炎									5 (0.01)	1 (0.14)
	マイコプラズマ肺炎			2				2 (0.29)	2 (0.29)	176 (0.38)	8 (1.14)
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1				1 (0.14)		7 (0.02)	2 (0.29)
計 (小児科定点当たり人数)	31 (15.50)	71 (9.94)	188 (16.70)	46 (15.33)	13 (6.50)	73 (14.38)	422 (13.83)				
前週 (小児科定点当たり人数)	51 (24.75)	71 (9.78)	205 (18.08)	52 (16.93)	37 (18.25)	71 (14.05)		487 (15.81)	64,488		7,053 (202.91)

定点当たり

第9週

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週
			中央東	高知市	中央西				
内科・小児科	インフルエンザ		0.36	0.06			0.38	0.17	0.54
	咽頭結膜熱					1.00		0.07	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.29	0.73	0.67	0.50	0.40	0.50	0.50
	感染性胃腸炎	14.50	5.86	10.45	12.33	3.00	9.20	9.13	10.83
	水痘		1.71	1.18	0.33	0.50	1.60	1.17	1.37
	手足口病			0.45				0.17	0.03
	伝染性紅斑		0.14	0.18				0.10	0.03
	突発性発疹		0.14	0.82		0.50	0.40	0.43	0.30
	百日咳								0.07
	ヘルパンギーナ				0.33			0.03	
	流行性耳下腺炎				0.33		0.60	0.13	0.03
	RSウイルス感染症	1.00	1.43	2.36	1.33	1.00	1.80	1.77	2.10
	アフター性口内炎			0.45				0.17	
眼科	急性出血性結膜炎								0.33
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	
基幹	細菌性髄膜炎								
	無菌性髄膜炎								
	マイコプラズマ肺炎			0.40				0.29	0.29
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			0.20				0.14	
計 (小児科定点当たり人数)		15.50	9.94	16.70	15.33	6.50	14.38	13.83	
前週 (小児科定点当たり人数)		24.75	9.78	18.08	16.93	18.25	14.05		15.81

2010年週報推移(定点当たり)

